

(参考) 実行中のプロジェクト: ① 「スマート農業推進総合パッケージ」に盛り込まれた施策の確実な実施

○ 2020年10月に、ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用した「スマート農業」を推進し、生産現場の課題を解決するため「スマート農業推進総合パッケージ」を策定。

(1) スマート農業の実証・分析、普及

- ①スマート農業実証プロジェクト
- ②戦略的な研究開発の推進
- ③横展開に向けた体制強化

実証：スマート農業体系のイメージ（大規模水田作）



研究開発の例



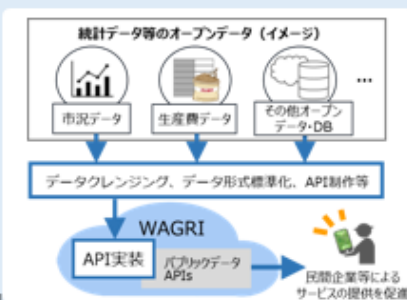
(3) 実践環境の整備

- ①農業データの活用促進
- ②スマート農業に適した農業農村整備
- ③技術の進展に応じた制度的対応

農業農村整備



データ活用環境の整備



(2) 新たな農業支援サービスの育成・普及

- ①プラットフォームの創設と育成プログラムの策定
- ②農業支援サービスの調査・分析、マッチング
- ③農業支援サービスへの支援強化

「スマート農業新サービス創出」プラットフォーム



農業支援サービス関連施策の紹介



(4) 学習機会の提供

- ・スマート農業教育の充実 等
- 共通カリキュラムの作成・提供



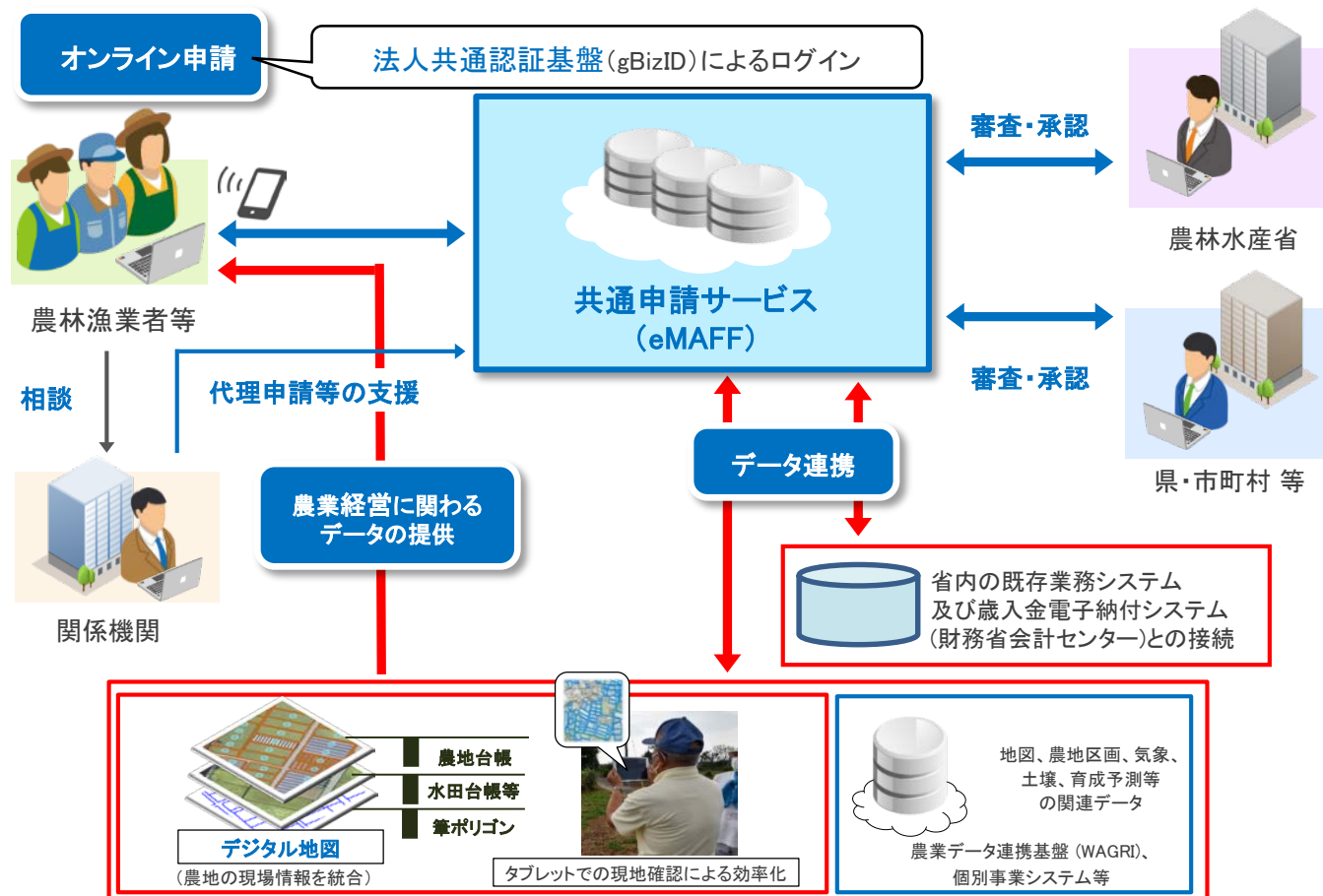
(5) 海外への展開

- ・国際的なアウトリーチ活動の強化 等



(参考) 実行中のプロジェクト: ② 農林水産省共通申請サービス(eMAFF)

- 農林水産省所管の法令に基づく手続や補助金・交付金の手続(地方自治体の事務も含む)3000超を対象。
- 国に対する手続だけでなく、地方公共団体で完結する手続も含めた共同基盤として開発。
- 農林水産行政等のデータを集約し、データを十分に活用した政策立案を可能にするDBを構築。
- 端末操作に不慣れな高齢農業者等に配慮し、支援機関による代理申請の機能も装備。
- SaaSを採用することで、申請者等に統一感のあるUI/UXを提供。
- eMAFFとデジタル地図を組合せ、現場の農地情報を統合し、一元的に管理できる農林水産省地理情報共通管理システム開発に本格着手。



申請者が自身のスマホ、PC等からオンライン申請できる**ワンストップ**はもちろん、ひとつのID/PWで、様々なサービスにログインできる、**シングルサインオン(SSO)**を実現。

紙から電子に変わること、一度提出した情報を活用して申請できる、**ワンストップ**を実現。

様々なデータを集約し、連携させることにより、**精度の高い分析に基づく政策評価や政策立案**が可能に。

制度担当者が自ら申請画面を構築することで、**開発の手間とコストを削減**。**BPRの契機**にもなる。

(参考) 実行中のプロジェクト: ③ eMAFFとデジタル地図を活用した農地情報の一元的管理

※1 「デジタル地図」を活用した農地情報の管理に関する検討会報告に基づき作成

直感的な申請作業
窓口一本化(ワンストップ)
一度提出した情報は再提出
不要(ワンスオンリー)

農業者

農林水産省共通申請サービス(eMAFF)

農業委員会
事務局

独自DB
農地権利
関係

地域農業
再生協議会

独自DB
経営所得
安定対策

農業共済
組合

独自DB
収入保険
農業共済

助言・支援

一元的に管理

衛星画像、AIによる作物
判定

正確な農地情報の申請

タブレットによる現地確認
データの共有

地域農業の話し合いへの活
用

「デジタル地図」

農地台帳

水田台帳等

筆ポリゴン

農地情報を紐づけ

スマート農機の活用

作況情報、統計等への活用

デジタル地図

- 農地区画情報の筆ポリゴンをベース
- 多様なデジタル技術を活用
- 農林水産省共通申請サービスと連携
- 各農地情報を紐づけた地図

削減される業務量(試算)

○ 申請書類からのデータ
入力や書類保管の作業時
間

→ **ゼロ**

○ 現地調査の紙の地図
作成や帰庁後の再入力の時
間

→ **ゼロ**

○ 現地調査時の誘導や
調査結果の記入に要する
時間

→ **6割程度削減**

(参考) 実行中のプロジェクト: ④ 農林水産省の業務の抜本見直し

○ eMAFFによるオンライン化に先立ち、現状把握や業務フロー図の作成(可視化)、申請項目・添付書類の削減など、行政手続に係る既存の業務の見直し(BPR)を実施。

○ その上で、農林水産省職員による画面構築などeMAFFへの実装作業を行い、農林漁業者等の関係者に周知。

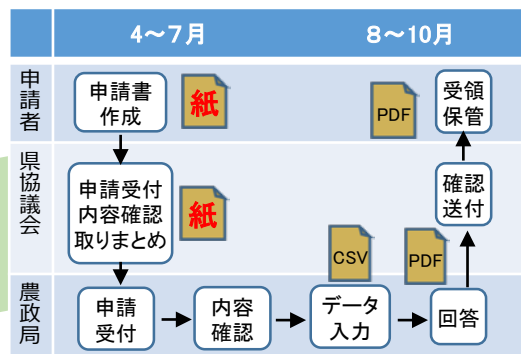
現状



補助金の申請手続に係る
保存書類の例(1年分)

業務フロー図の作成

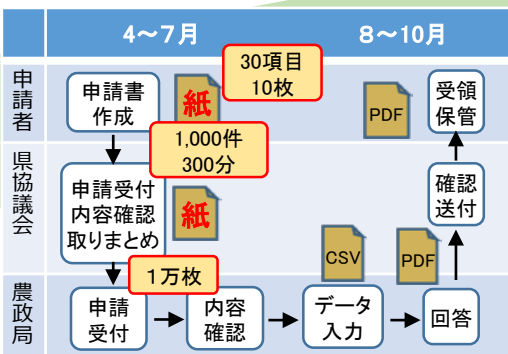
業務の工程、時期等を書き出し



補助金の申請手続に係る業務フロー図(イメージ)

現場への聞き取り

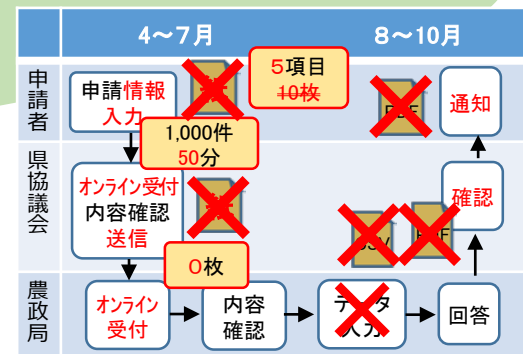
現場に聞き取った作業件数、枚数
等を書き込み



(同左)

業務フロー図の見直し

手続ごとに見直し案を作成



(同左)

実装方法の習熟

職員への全体説明会開催や説明動画の作成を実施



農林水産省の実装作業担当職員への説明会の様子

申請画面の構築



行政手続ごとに申請画面を構築

- ・ PC、スマホ・タブレットに対応。
- ・ 地図からの直感的な入力も可能。

農林漁業者など関係者へ周知

申請方法や受付開始時期等を周知
一部事業で申請手順の実証を実施
(※写真は農業委員による現地確認の実証)



オンライン申請受付開始

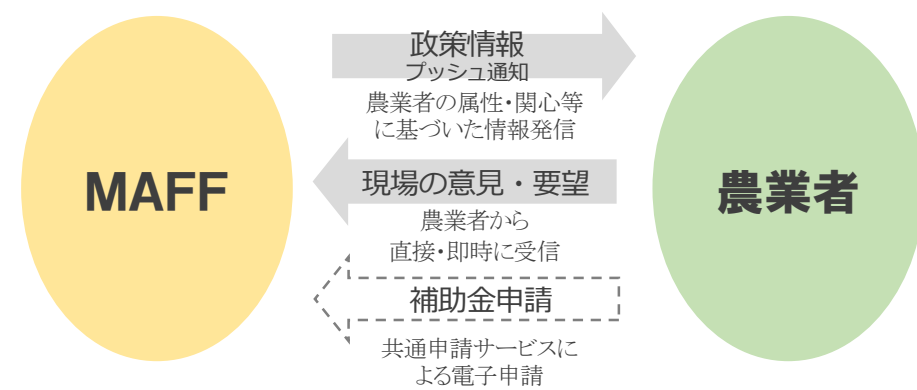
令和4年度までに全ての
手続をオンライン化



(参考) 実行中のプロジェクト: ⑤ 農業者政策情報配信アプリによる現場とのコミュニケーションの充実

- 「政策情報が農業者に届いていない」「現場の声がありのままに霞ヶ関に届いてこない」といった問題意識から、農林水産省と農業者との間における新たなコミュニケーションツールとして、[農業者向けアプリ\(MAFFアプリ\)](#)を開発し、昨年5月にリリース(※)。
- アプリを通じ、①あらかじめ取得したユーザー属性に応じたプッシュ型の情報発信や、②政策への意見や現場の要望のリアルタイムな吸い上げ(情報の受信)等、[農業者との間で直接・即時の情報受発信を実現](#)。将来的には、共通申請サービスとの接続や追加機能の付与により、[農林水産省と農業者の総合的なコミュニケーション・プラットフォームに発展](#)させる。
- また、同時に、[「農林水産省政策情報API」を提供](#)。API連携により、民間の営農支援アプリや農業関係ウェブサイト等でもMAFFアプリで配信する情報を提供可能となる。

※ 登録者(ユーザー)数は13,502人(令和3年1月25日時点)



<MAFFアプリの今後の展望(ビジョン)>

- 展望①：多元分散的な情報共有の実現**
MAFFアプリでの情報提供主体を、農林水産省から地方部局や地方自治体まで拡大し、それぞれがアプリ上で多元的に情報発信。ユーザーはアプリで一元的に情報を取得。
- 展望②：政策リソースのクラウドソーシング**
農業者等からアプリで撮影した位置情報等付きの画像を収集し、病害虫の発生や災害被害の状況把握、補助金の現況確認等に活用。リアルタイム・低コスト・直接の情報収集を実現。
- 展望③：農業者支援情報の一元的提供とUXの向上**
農林水産省等が提供する農業者に役立つ情報、サービス等について農業者のUXを重視した形で一元的に提供。将来的にはeMAFFと連携し、提供情報の個別化を実現。

(参考)実行中のプロジェクト:⑥農林水産省の起業支援プラットフォーム「INACOME」

- 平成30年秋に起業促進プロジェクト「INACOME」(イナカム)を始動。
- オンライン上で起業家や起業支援者が交流できるプラットフォームを基盤として、ビジネスコンテスト、イノベーターを講師とするウェビナー開催、地域課題の解決に意欲ある起業家と地域とのマッチングプログラム等を実施。
- これらの取組を通じて農山漁村において地域資源を活用した多様なビジネスの創出を促進し、所得と雇用機会を確保。

Webプラットフォームの構築

- ✓ 起業家・支援者と直接交流・マッチング
- ✓ 起業家に有用な情報コンテンツを配信



起業家支援の取組

- ✓ 起業支援ウェビナー開催
- ✓ 起業家・関係者マッチング



INACOMEプラットフォーム会員数
R3.1: **1,200名**へ拡大

アクセラレーション プログラム

- ✓ メンタリング等を通じて
起業家の課題を把握
- ✓ ピッチイベントを開催



【R2】

ビジネスコンテスト

- ✓ 全国から84件の応募
- ✓ 決勝進出者のインタビュー
記事をMAFFアプリで発信



【R1】

【H30】

【R3】

R3ビジネス
コンテスト開催！

マッチングプログラム

- ✓ ビジネスで地域課題の解決を
望む自治体と意欲ある起業家
とのマッチング機会創出
- ✓ 応募があった5地域の課題に
対して12件の提案申込



- 農業のデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に当たっては、農業政策や行政内部の事務についてもDXを進め、データに基づく分析・予測・検証を繰り返し行っていくことが不可欠。
- このため、BIツールの活用を通じて職員のITリテラシーの向上を図るとともに、デジタル技術に精通し新しい価値を創造するデータサイエンティスト人材を育成し、データ活用を強力に推進。

